

2010-2011年度 国際ロータリー第2690地区  
地区大会記念講演要旨

## 「日本人のわすれもの」

櫻井 よしこ

戦後60数年間、私達は本当に多くのものを手にしてきました。同時に、多くの大事なものも置き忘れてきたと感じます。これから先、私達の国日本がどういうことになるのかを考えてみたいと思います。

古来から私達の国の財産は“人材”であると言われてきました。明治維新から日清戦争、日露戦争、大東亜戦争、そして戦後65年、まさに人材があればこそ、私達は多くの問題を乗り越えることができました。

いま、この“人材”、人間が我が国でどのように変わっていくのか、日本人自身がどういう運命を今たどりつつあるのかということ、まず見つめてみたいと思います。

人材を輩出するには、ある程度の人数が必要です。今我が国には約1億2,000万人の国民がいますが、40年後の2050年には9,000万人に減り、40年間で3,000万人減少すると考えられています。毎年75万人減り、週単位で考えると毎週1万5,000人ずつ減っていきます。いわば1万5,000人の町や市が毎週1つずつ消えていくということです。しかも、今から40年間ずっと減り続けるのです。人口問題が如何に深刻であるかが痛切に感じられます。

40年後に9,000万になる日本人の年齢構成は、現在総人口に占める割合が18%の15歳以下の若い「育つ命」が、40年後には半分の9%になります。そして現在約22%の65歳以上の高齢者が、40年後には37%になります。このように総人口が急減し、しかも15歳以下の未来を担っていく若い命が半分になり、長寿のおかげで65歳以上の方々がほぼ倍増するという国は、世界広しと言えども、日本以外にはありません。人材という観点から、論評を加えない客観的な数字で見ると、日本の力が衰えていかざるを得ないという状況に直面しているのです。

国民の数が減ってきている今、私達が立っている時代は、1人が10人前の働きをすることができる時代であり、心意気のある人達は皆10人前の働きをすることが期待されている、働き甲斐のある時代なのです。

我が国は歴史的に顧みても、小さな国・少人数の国でありましたが、“人材”を得て、大きな国・大人数の国を打ち負かしてきました。しかし、大東亜戦争に敗れ外国に占領されたことにより、我が国の国家の根幹である憲法をアメリカにつくられ、社会の基本的な仕組みである家族、教育、土地、税などの制度もアメリ



カの価値観によって変えられました。しかし、日本国は日本人の価値観を基本にしてつくられなければならないのです。

日本人としての自覚、日本人としての価値観を育てるためには、歴史を賢く学び、子どもたちにきちんと教える必要があります。歴史を通して初めて、人間は“自分は何者であるか”“自分の国はどんな国であるか”ということを知ることができるといえます。にもかかわらず現在、歴史教育は日本で最も軽視されています。子どもたちは小学6年生で初めて歴史を学び、時間が足りないために飛び石の内容でしか教えられません。歴史の面白さを知ることなく歴史に無関心な大人になってしまいます。その結果、日本には歴史を知らない人々があふれています。そして大人たちは、家庭でも歴史を語りません。尖閣諸島に隣国中国がこぞとばかりに侵入してくるのも、そのように歴史を知らない日本人達を論破するのは簡単だと思っていることが一つの要因であろうかと思えます。

国家というものはどういう責任を果たすべきものでしょうか。国家はその民族の生き残り、その国家の生き残りを担保する、これが国家の1番の責任です。担保するには力が必要であり、その力は、一つは“外交力”、政治力であり、もう一つはそれを支える“軍事力”です。しかし、日本は戦後、外交力も政治力も軍事力も持たずにやってきました。軍事力をアメリカに頼り、アメリカを後追いする外交をやってきました。これはもはや国家ではありません。国家とは言えなくなった日本に、周辺国々、特に中国は日本与し易しと考えて、尖閣諸島問題のように、強気強気で押してきているのだと思います。国家というものはどこかの国に守ってもらうのではなく、まず自力で自らを守らなければならないのです。

今、目の前の状況を打開するためにも、そして30年、

40年後の日本を立派な国として作りあげていくためにも、なんとしても今、視点を変えなければなりません。視点とは「国家は誰かが守ってくれるものではない、自分達でまず守らなければならない。その為には、日本が国として再生を図っていかなければならない。」と決意することが第一です。

国としてどのように再生を図るのか。教育こそが最も重要な役割を果たします。立派な日本人の生き方の多くの事例を一つ一つ私達大人が振り返り、子どもたちに教えていく。その意味で、歴史を学び、日本人であることを自覚して、日本人であることがどういうことかを具体的に考え、教えていくことが必要だと思えます。

今の日本のおかれている状況は、目の前の尖閣の問題、中期的には子どもたちの教育問題、そして長期的には日本国をどのような国にしていくか、憲法改正を含めた問題などがあります。短期、中期、長期、いずれのケースにおいても、日本国はただならぬ危機の中にあります。一にも二にも日本人としての教育をして、そして立派な日本人を育てることに最大の力を注ぎましょう。その子どもたちが大人になる時に、1人が10人前、20人前の働きができるような気概を身につけているように教え導いてやらなければ、私たちの国は30年、40年、50年後、危うくなっていると思います。

本当に努力する人がいて、そうした人々が社会をつくっていくとき、天がこの国を守らない筈はないのです。

ロータリアンの方々の公を思う気持ちが、これからもずっと皆様方を支えてくれると思います。その力をもっと意識して社会全体に広げていくように、一緒に頑張りましょう。そうすれば私達の国は必ず、短期の問題も、中期の問題も、長期の問題も見事に乗り越えて、素晴らしい日本人がつくる素晴らしい日本国が誕生することになると思えます。